

先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）
中間評価結果

機関名	琉球大学
事業概要	「統括部局」の機能を強化し、学部・研究科等の各研究組織での管理が進みつつある研究設備・機器を、研究機関全体の研究基盤として戦略的に導入・更新・共用する仕組みを強化（コアファシリティ化）する。 地域と連携したレジリエントな研究基盤システムを確立し、琉球大学がリードする沖縄全体のコアファシリティを構築することを目的として、実施する。
評価（総合評価）	コメント
B	・理事を長とした統括組織を立ち上げ、技術職員組織の一元化も図り、学内の体制整備が進展している。 ・沖縄地区のハブ機関として他機関との連携を強力に推進しており、今後、当初の計画に記載された OIST との連携や、沖縄全体を見据えたより積極的な活動が展開されることを大いに期待する。 ・民間企業等からの外部資金を獲得する戦略を検討し、本事業終了後の自立的運営の計画の具体化が必要である。
評価（個別評価）	
① 進捗状況	コメント
b	・全学的な研究基盤体制を構築し、目標達成に向けて取り組んでいる。 ・実際の運用についてスピード感を持って進められることを期待する。 ・更なる研究設備・機器の導入、更新に向けた仕組み作りが必要である。
② 経営戦略	コメント
a	・基本方針が策定されており、設備マスタープラン策定への参画等、新センターの活動が経営戦略に組み入れられている。 ・ほぼ計画通りに進捗しており、大学の研究機器設備・整備方針に基づく計画は策定したと判定されるが、持続的な事業実施に向けて、戦略的な予算確保の検討（具体的な民間資金等の外部資金獲得計画の策定など）が必要である。
③ 実施体制・仕組み	コメント
a	・総合技術部が整備されたことは評価できる。 ・全学的な研究技術マネジメント体制を構築し、エビデンスに基づく研究基盤運用を行うためのシステム（UR-Core）も構築した。更に共用機器の運用に関する全学的な規程等（料金規程含む）も、研究基盤戦略委員会において整備し、効果的・効率的運営に取り組んでいる。 ・アカデミア内での取組が多く、民間企業との取組が弱い印象である。地域性のハンデもあるが乗り越えてほしい。 ・学長自らが指導力を発揮する体制の整備に期待したい。

④ 人材育成	コメント
a	・ 広く情報を集めて人材育成システムの整備が模索されている。 ・ 技術職員の研修派遣や科研費申請支援を行っている。 ・ 技術職員のスキルの見える化・標準化に取り組んでおり、スキルは学内外に公開予定で、人材育成に活用されるものと思われるが、キャリア形成に繋がるまでの取組も期待したい。 ・ 令和2年度採択大学との連携（東工大 TC カレッジへの参加）など、学外のプログラムも上手く活用中だがスキルアップの見える化ができるとさらに良い。 ・ 今後、透明で公正な人事評価システムが確立されることを期待したい。
⑤ 資金計画	コメント
b	・ 自立的な研究機器・設備の整備運用に必要な予算枠の確保や、外部資金確保に向けた共用機器の利用手続きの見直し、新たな利用形態（サブスクリプション）の検討が進んでいることは評価できる。 ・ 自立的な予算枠の設定については、この予算が事業終了後の自立的運用において十分であるかについて、今後検討が必要である。また人員雇用計画についても検討が望まれる。 ・ 外部資金による自立化に向けて、積極的な民間資金導入に取り組む必要がある。
⑥ その他の政策との連携	コメント
b	・ 技術職員のスキルの見える化・標準化についてデジタル庁の事業に採択されている。今後の成果と波及効果が楽しみである。 ・ 外部連携について、シンポジウムやセミナー開催等にとどまらない活動の展開が望まれる。 ・ 産学連携に資する研究企画室 (URA) との協働の進捗や、全国の研究基盤ネットワーク等との連携を更に深めることなどに期待したい。 ・ 機器運用の効率化、若手支援等に成功している。ドローンチームの設立など新たな研究領域拡大に取り組んでいる。さらに領域拡大や分野融合等の活動を活性化し、外部資金導入に繋がるようなイノベーション創出を望む。
⑦ 外部連携、国際化	コメント
b	・ 沖縄内の連携、他大学・機関との連携を積極的に進めている。 ・ 全国に向けたシンポジウム開催など九州地区での連携強化や、沖縄内のハブ機関としてリーダーシップを発揮していることは一定の評価ができる。より積極的な取組を望む。 ・ 国際化や民間資金の導入については、当初の計画に示された通り OIST との連携を深めるなどの施策により、沖縄からの先端技術発信、国際共同研究の中心地に昇華する戦略の検討を期待する
備考	なし